

第8次今金町農業振興計画

令和2年～7年

# 希望の大地



今金町農林業振興会議

## 第8次今金町農業振興計画の策定にあたって

近年の農業をめぐる情勢は、米政策の見直しとして平成30年産米からの生産数量目標の廃止による自由生産の開始やTPP11及び日EU・EPA更には日米物品貿易交渉(TAG)等の貿易交渉による国際間・産地間の競争が一層激しさを増していくことが想定される中、北海道胆振東部地震によるブラックアウトや台風等の自然災害の脅威が高まっており、NO SAI制度の見直しによる「収入保険制度」の創設など、新たな制度の導入が進められているところです。

今金町においては、今金男しゃくにおける「地理的表示(GI)保護制度」を令和元年に取得し、実需者及び消費者からの高い信頼を得ている一方、高齢化を中心とした農家戸数の減少による生産力の低下が懸念され、具体的な対策による地域農業衰退の歯止めが求められています。

この様な中で作成された第8次今金町農業振興計画は、「今金型地域複合経営の推進」「基盤整備農地の効果的な活用」「営農の継続・生産性向上の対策」といった3つの農業振興方策を定めることにより、地域課題への対策を効果的に実践することとしています。

また、農業振興方策の具体的な推進・対策として、スマート農業の推進を中心とした主要振興対策を掲げており、計画前期(令和2~4年度)から主要振興対策に基づき、積極的にスマート農業の地域普及を進め、作業の省力化対策に取り組みます。

農業経営においては、農業情勢の変動により様々な課題や不安がありますが、この計画の着実な実行により「効率的かつ安定的な農業経営の実現」を目指し、関係機関一丸となり第8次農業振興計画の実現に向けた取組みを実施していきますのでご理解ご協力をいただきますようお願い申しあげます。

令和元年11月

今金町農林業振興会議  
会長 村上仁司

## 目 次

第8次今金町農業振興計画の策定にあたって

1. 今金町における農業の概要 .....	P 1
2. 第7次今金町農業振興計画の検証 .....	P 7
3. 今金農業の目指す姿(農業振興方策) .....	P 10
(1) 今金型地域複合経営の推進	
(2) 基盤整備農地の効果的な活用	
(3) 営農の継続・生産性向上の対策	
4. 主要振興対策 .....	P 15
(1) スマート農業の推進	
(2) 基盤整備の推進	
(3) 酪農畜産の推進	
(4) 農畜産物の生産・出荷における分業化の検討	
(5) 継続する必要がある取組	
5. 年次別農業粗生産計画(前期分) .....	P 22
6. 今金町農林業振興会議 .....	P 27

# 1. 今金町における農業の概要

## 1. 今金町の概要

今金町は、渡島半島北部の檜山管内にあり、北緯  $42^{\circ} 25'$  、東経  $140^{\circ} 1'$  に位置する。その範囲は東西 27.5 km、南北 35.3 km、総面積は  $568.1 \text{ km}^2$  であり、町の周囲は東西南北をそれぞれ長万部町、せたな町、八雲町、島牧村に接している。

総面積は  $568 \text{ km}^2$  であるが、山林が  $443 \text{ km}^2$  と全体の 78% を占めており、耕地面積は  $52 \text{ km}^2$  で総面積の 9 % に過ぎない。

地勢は、メップ岳(1,147m)やカニカン岳(981m)等の山地から連なる単調な丘陵地帯と、平坦な利別平野からなり、町のほぼ中央を一級河川後志利別川が約 80 km にわたって貫流して日本海に注ぎ、周辺の山地を源とする中小河川がこれに合流している。

## 2. 今金町農業の動向

### (1) 農家戸数

今金町の販売農家戸数は平成 22 年の 305 戸から平成 27 年には 271 戸となっており 34 戸減少、平成 12 年の 441 戸から比較すると 15 年で 170 戸、37% 減少している。

農業所得が主である主業農家の変化をみると、27 年は 209 戸と 22 年の 238 戸から 29 戸減少しているが、販売農家に占める主業農家の割合は平成 12 年以降、75% 前後の水準となっている。副業的農家が平成 22 年の 44 戸から平成 27 年には 51 戸に増加しているが、これは後継者のいない高齢農家が、規模を縮小しながらも農業を継続しているためと推測される。

表1 今金町の農家戸数の推移 (資料: 農林業センサス)

	H2	H7	H12	H17	H22	H27
主業農家			339	294	238	209
準主業農家			26	26	23	11
副業的農家			76	55	44	51
合計	616	505	441	375	305	271

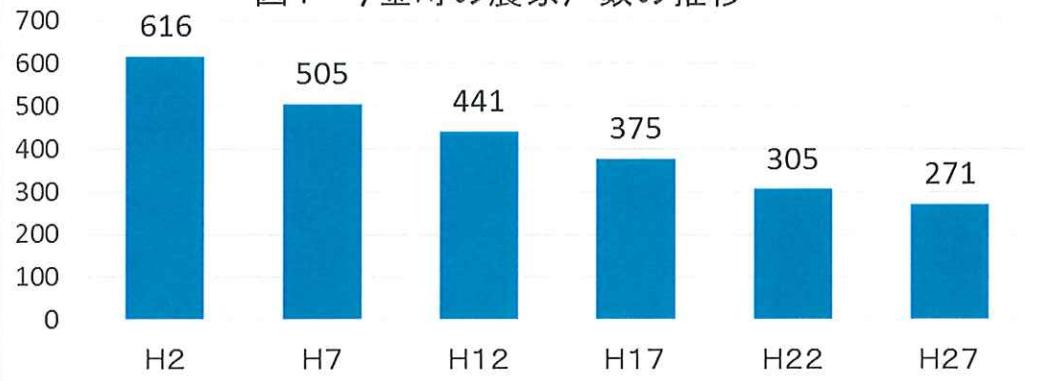
※H2 及び H7 は総農家数、H12 以降は販売農家数。H2・H7 は主業副業別のデータなし。

・主業農家：農業所得が主で、1年間に 60 日以上農業従事する 65 歳未満の世帯員がいる農家

・準主業農家：農外所得が主で、1年間に 60 日以上農業従事する 65 歳未満の世帯員がいる農家

・副業的農家：1年間に 60 日以上農業に従事する 65 歳未満の世帯員がいない農家

図1 今金町の農家戸数の推移



## (2) 経営耕地規模別農家戸数

経営耕地規模別農家戸数の推移について、20ha未満の農家戸数が減少しており、平成12年の377戸から平成27年には187戸となっている。一方、農家戸数が全体として減少する中で30ha以上の農家数は増加しており、平成12年には17戸と農家全体の約4%にすぎなかつたものが、平成27年には55戸に増え、割合も20%を上回る水準となっている。

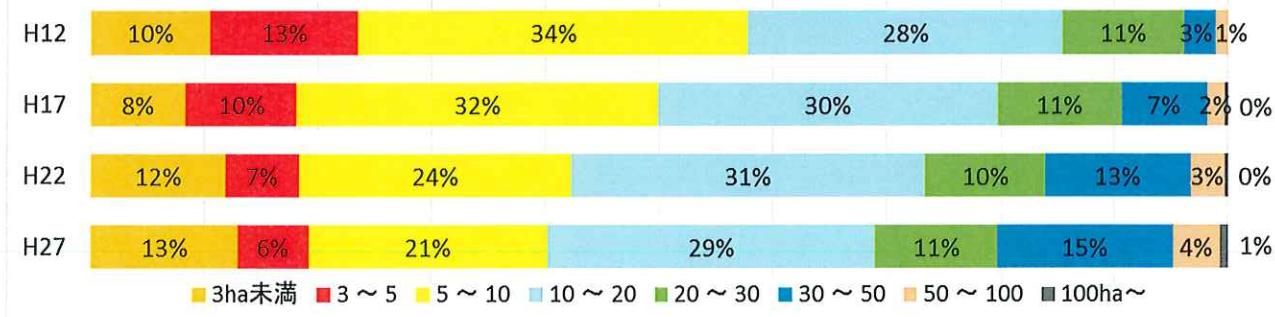
もっとも戸数が多い階層も、平成12年の5~10ha(151戸)から、平成27年には10~20ha(78戸)に移っており、このことからも経営規模の拡大傾向が進んでいることが分かる。

表2 経営耕地面積規模別農家戸数

(資料:農林業センサス)

	3ha未満	3~5	5~10	10~20	20~30	30~50	50~100	100ha~	合計
H12	46	58	151	122	47	12	5		441
H17	31	37	119	112	41	28	6	1	375
H22	36	20	73	95	32	39	9	1	305
H27	35	17	57	78	29	42	11	2	271

図2 経営規模別農家戸数割合



## (3) 農畜産物販売金額別農家戸数

農畜産物販売金額別農家戸数について、1,000万円未満の農家戸数は平成12年の252戸から平成27年に120戸と半分以下に減少している。一方、1,000~2,000万円の層では、戸数は139戸から85戸へと減少しているものの、農家戸数に占める割合は約30%とほぼ同じ割合で推移しており、販売金額が3,000万円を超える層では、農家戸数・割合ともに増加している。

今金町では経営面積の大規模化とともに、施設園芸や露地野菜など高収益作物の導入が進んでおり、このことが販売金額大きい農家数の増加につながっていると考えられる。

表3 農畜産物販売金額規模別農家戸数

(資料:農林業センサス)

	300万円未満	300~500	500~700	700~1,000	1,000~2,000	2,000~3,000	3,000~5,000	5,000万円~	合計
H12	87	36	45	84	139	37	13		441
H17	52	36	52	74	109	32	18	2	375
H22	39	26	43	38	101	36	19	3	305
H27	43	16	28	33	85	35	26	5	271

図3 農畜産物販売金額別農家割合



#### (4) 農業従事人口

農業従事人口も年々減少しており、平成12年には1,043人だったものが、平成27年には657人と、15年間で37%の減少となっている。年齢階層別でみると、30歳代と40歳代前半では人数が平成22年に比べわずかながら増加しているものの、その他の年齢階層ではおおむね減少となっている。

また、平成27年では最も人数が多いのが60歳代前半の120人、次いで多いのが60歳代後半の108人となっており、60代で農業従事人口の34%を占めている。それより上の年齢階層も含めた60歳以上の人数は353人と、農業従事人口の54%を占めており、農業従事者の高齢化が進んでいる。

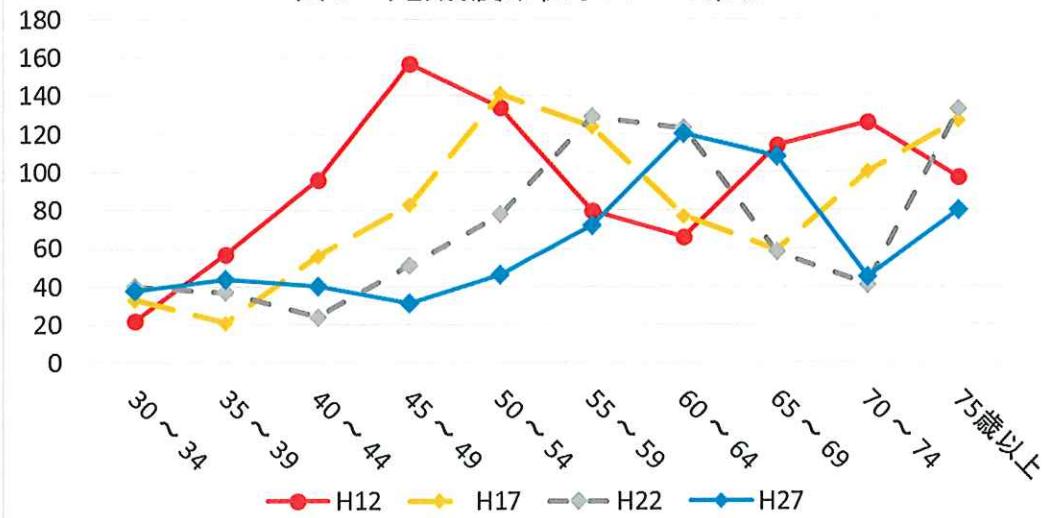
今後は、現在60歳代の農業従事者が農作業からリタイアしていくことが見込まれ、このことに伴う農業従事者の急激な減少が懸念される。

表4 農業従事人口

(資料:農林業センサス)

	15～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75歳～	計
H12	94	22	57	96	157	134	80	66	114	126	97	1,043
H17	79	33	21	56	83	141	124	77	59	100	127	900
H22	51	40	37	24	51	78	129	123	58	41	133	765
H27	33	38	44	40	31	46	72	120	108	45	80	657

図4 年齢別農業従事人口の推移



### (5) 農業雇用の状況

農家戸数や農業従事人口が減るなか、雇用によって労働力を確保する動きが広がっている。雇用の状況について、平成 22 年に人を雇い入れた経営体数が 170 であったのに対し、平成 27 年には 138 に減少しており、実人数も 1,345 人から 1,003 人に減少している。一方で、延べ人日では 29,300 人日から 39,203 人日に増加しており、雇用される人数自体は少なくなったものの、一人あたりの雇用される日数・時間は増加している。

平成 27 年に町にて実施した労働力調査の結果より、雇用されている人数が最も多い 8 月には 326 人が雇用されているが、雇用は不足の状況となっている。将来的にはピーク時に 400 人の雇用が必要と見込まれているから、今後はこれまで以上に雇用の確保が必要となる見通しである。

表5 農業雇用の状況

(資料:農林業センサス)

	雇い入れた 実経営体数	実人数	延べ人日 (人日)	常 雇 い			臨時雇い(手伝い等を含む。)		
				雇い入れた 経営体数	実人数	延べ人日 (人日)	雇い入れた 経営体数	実人数	延べ人日 (人日)
H22	170	1,345	29,300	23	69	14,519	162	1,276	14,781
H27	138	1,003	39,203	28	100	18,089	131	903	21,114

### (6) 耕地面積の状況

北海道農林水産統計年報によると、平成 27 年の 耕地面積は田 2,630ha、畑 3,040ha であり、平成 22 年と同じとなっている。一方、農家戸数は前述のとおり年々減少していることから、1 戸当たりの耕地面積は 20.9ha となり、これは平成 22 年 18.6ha から 2.3ha の増加（約 1.1 倍の増加）、平成 12 年と比較すると 7.8ha の増加（約 1.6 倍の増加）となっている。

表6 耕地面積の推移

農家戸数	耕地面積	耕地面積			1戸当たり 耕地面積
		耕地計	田	畑	
H12	441	5,760	2,990	2,770	13.1
H17	375	5,670	2,640	3,030	15.1
H22	305	5,660	2,630	3,040	18.6
H27	271	5,660	2,630	3,040	20.9

資料:耕地面積は北海道農林水産統計年報、農家戸数は農林業センサス

### (7) 今金町農業の動向の総括

今金町の農業においては、農家戸数及び農業従事人口の減少が長期的に続いているが、これまで町内の農地は維持され、農業経営の大規模化が進展するとともに、収益性の高い農作物の作付が増加してきたことから販売金額の大きな農家の割合も増加を続けてきた。また、農家労働力の減少に対しては、雇用の増加により対応してきた。

一方、農家における農業従事者の過半が 60 歳以上となっており、この層がさらに高齢となることによって、将来的には農業従事者が大幅に減少することが見込まれる。さらに、農家の農業従事者減に対しては雇用で対応してきたが、雇用者の確保がさらに必要となる

一方、雇用者数も減少している状況にある。

今後は、農業の担い手が減少する中においても、農業生産を継続し町内の農地を維持するとともに、収益性の高い農業を展開し生産高をいかにして維持するか、その方策を検討することが必要になってくる。

### 3. 営農状況

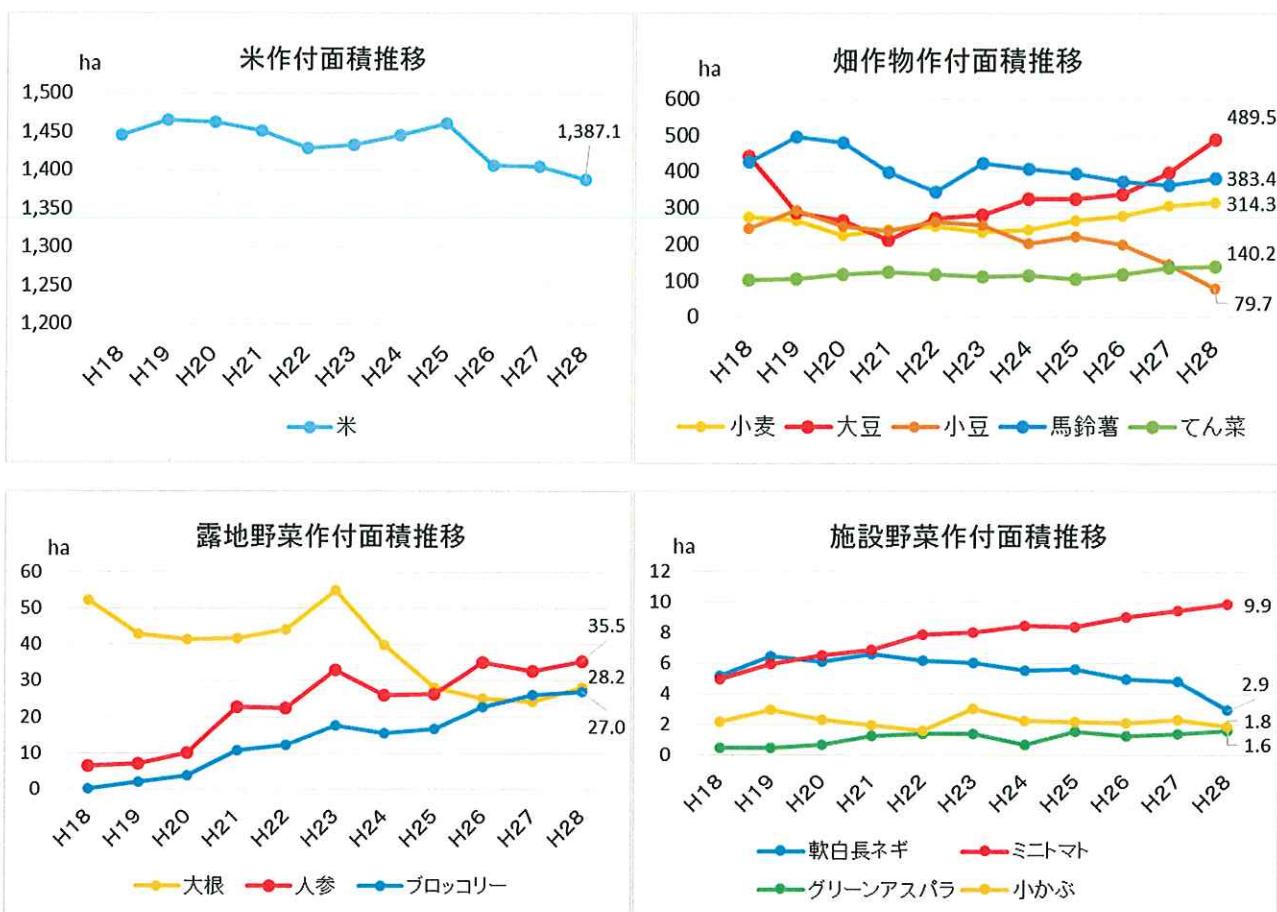
#### (1) 作物作付状況

今金町内における作物の作付状況について、もっとも作付面積が大きいのは水稻となっており、近年は国営緊急農地再編整備事業の工事実施に伴い若干減少しているものの、おおむね 1,400ha 前後の作付となっている。

畑作は、馬鈴薯を中心とした輪作体系が行われ、麦、大豆・小豆、てん菜が作付されている。この 10 年の動きでは、馬鈴薯は作付がいったん減少したものの、現在は微増に転じており、また小豆の面積が大きく減少する一方で、大豆の生産量が大幅に増加している。

また、高収益作物の野菜類について、露地野菜では大根・人参、ブロッコリーが主に作付されており、近年では人参とブロッコリーの作付が増加している。また、施設園芸作物ではミニトマトの生産が増加を続けている。

図5 各作物作付面積推移



## (2) 主要家畜飼養状況

本町の畜産経営は、北海道内の他の地域と比較すると小規模経営であり、家畜飼養農家数も減少傾向となっている。

乳用牛飼養農家数は平成 12 年の 46 戸から平成 27 年は 31 戸と減少している。飼養頭数についても平成 12 年の 2,020 頭から平成 27 年には 1,716 頭と減少傾向にあり、1 戸当たり飼養頭数は平成 12 年の 44 頭から平成 27 年には 55 頭へと約 1.3 倍に増加している。

肉用牛はすべて黒毛和種であり、飼養農家数は平成 12 年が 52 戸、平成 27 年は 49 戸とわずかに減少している。飼養頭数は平成 12 年の 1,129 頭から平成 27 年には 1,806 頭と増加しているが、平成 22 年と比較すると若干減少している。1 戸当たり頭数も平成 12 年の 22 頭から平成 27 年には 37 頭と約 1.7 倍の増加となっている。

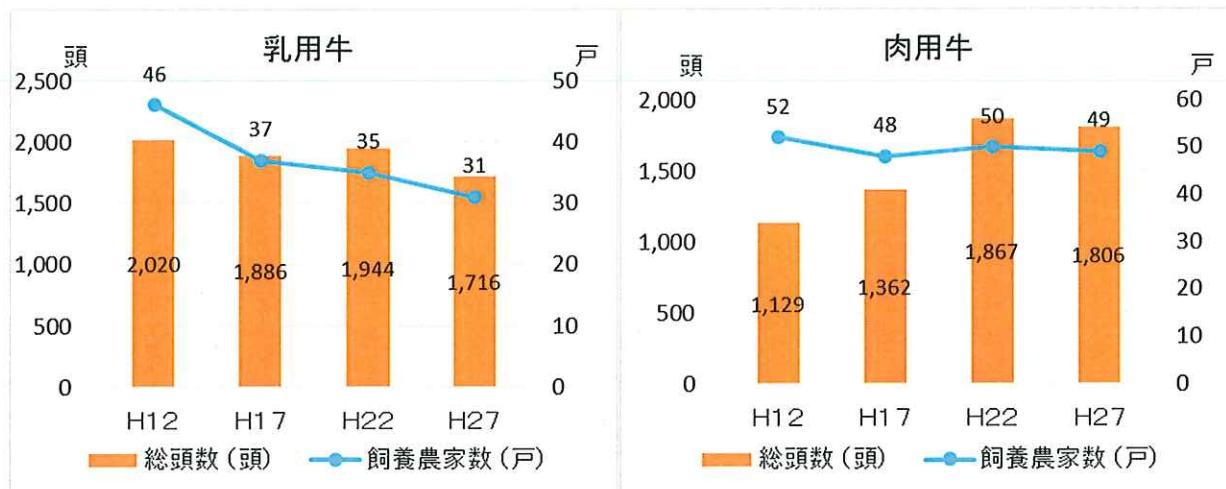
表7 家畜飼養農家数・飼養頭数

資料:農林業センサス

	乳用牛			肉用牛		
	飼養農家数 (戸)	総頭数 (頭)	戸当たり頭数 (頭)	飼養農家数 (戸)	総頭数 (頭)	戸当たり頭数 (頭)
H12	46	2,020	44	52	1,129	22
H17	37	1,886	51	48	1,362	28
H22	35	1,944	56	50	1,867	37
H27	31	1,716	55	49	1,806	37

※H27の総頭数の数字は独立行政法人家畜改良センター調べによる

図7 家畜飼養農家数・飼養頭数



## 2. 第7次今金町農業振興計画の検証（平成26年～令和元年）

### 【 農業をめぐる情勢 】

本町農業の課題を踏まえ、現状からの脱却と将来農業のあるべき姿を示し、「効率的かつ安定的な農業経営の実現」を目指すため、第7次今金町農業振興計画を策定し、「今金農業の目指す姿」の具現化に向けて取組みを行ってきました。

国においては、平成30年産米からの生産数量目標の配分廃止やTPP11及び日EU経済連携協定の発効を見据え、「総合的なTPP等関連政策大綱に基づく農林水産分野の対策」を平成31年2月に作成し、強い農林水産業の構築（体質強化対策）などにより、国際競争力のある産地の形成などに対する支援がされているところです。

こうした状況の中で、上記のような国レベルでの変化を見据えつつも、本町では農業振興方策に沿って様々な施策が行われました。

### 【 農業振興方策の検証 】

#### 1. 農業経営体質強化の推進方策

##### （1）今金型地域複合経営の推進

「規模拡大型」「集約型」については、後期計画策定時から現状維持が続いているため、本来の目的である機械コストの縮減の効果を発揮していない状況にあります。

しかし、農地の集積により規模拡大が進むなど、徐々にではあるが地域の中で「規模拡大型」と「集約型」の二つのスタイルに分かれてきており、「効率的かつ安定的な農業経営の実現」の推進が着実に図られてきています。

##### （2）営農地区内の合意形成

「人・農地プラン」の作成に向けた話し合いは、営農地区ごとの合意形成に向けた取り組みには至っておらず、営農地区の集約もされていない状況にあります。

また、営農活動が活発な地域と衰退し始めている地域の差が大きくなっている現状もある中、今金町農業協同組合による営農懇談会の開催、各種事業の説明会等による地域での会合を継続的に実施しています。

##### （3）情報提供と学習会の開催

今金町農業協同組合による営農懇談会を中心に、収入保険制度やNOSAI制度の改正点など、新たな制度や既存制度の改正などについて情報提供を実施しています。

また、継続的に経営所得安定対策や経営体育成支援事業等の補助事業についても説明会を開催しています。

##### （4）担い手対策

今金町地域担い手育成総合支援協議会が事業実施主体である「担い手対策事業」により、後継者の規模拡大や生産性向上に向けた取組に支援を行ったほか、法人化に対する支援も実施し、農業法人が増加しています。

また、産業後継者育成就業奨励金を交付し、後継者定着に向けた支援も実施しています。

#### (5) 農作業支援体制の整備

5 地区機械施設利用組合のサブソイラーは全地区、レーザーレベラーは国営事業完了後のは場で活用されているものの受託組織の機能は十分に果たせていない状況にあります。

また、地区により取組の状況に差異がみられ、ニーズに合った農業機械が未導入であることやオペレーターが慢性的に不足している状況にあります。

#### (6) 農業センター（仮称）構想

機能や実施する事業について具体的な内容の検討が実施されていない状況にありますが、労働力不足の対策として、無料職業紹介所の開設を町で実施し、運営しています。

#### (7) 土づくり対策

国営緊急農地再編整備事業や農地耕作条件改善事業により、透排水性の改善が進んでいますが、規模拡大による飛び地が発生し、土づくりに力を注げる環境とは言えない状況にあります。

### 2. 安心・安全の取組と付加価値の創造

#### (1) 安心・安全への取組と付加価値の創造

生産履歴記帳やGAPの生産者の取り組みは定着しているが、特にGAPについては生産者が取り組む意義などを十分理解して取り組んでいるか不明確な状況にあります。

また、環境に配慮した取り組みとして、Yes! Cleanなどの取り組みを継続しています。

ブランド化については、「今金男しゃく」の地域団体商標の認定や地理的表示(GI)保護制度を取得するなど、「今金男しゃく」を中心として実需から品質・食味の高評価を得ていることから、今金ブランドの定着は着実に図られてきています。

また、ポテトチップスの販売やメディア、広告媒体へのPR、更には西宮神社への奉納、献上米等ブランド向上の取り組みを実施しています。

### 3. 農畜産物の販売強化

#### (1) 農畜産物の販路拡大

販路については、首都圏中心の販売を進めながら、今金ブランドの認知度を高めるため、道内向けの販路拡大を進めたほか、ポテトチップスや中食を通じた「今金男しゃく」のPRを進めており、今金ブランド向上に伴う安定的な販売が図られています。

販売品目の集約について、施設野菜の品目についてはミニトマト・アスパラガスへの集約が徐々に進んできているが、品目の集約までは進んではない状況にあります。

また、早出馬鈴しょや人参といった収穫作業の機械化が推進された作物については、作付規模の拡大や安定が図られています。

酪農については、生産者ごとの乳質のばらつきが大きく、良質乳生産は一部の生産者のみで実施出来ている状況にあります。

肉牛における素牛生産については、家畜市場や畜産共進会において、高い評価を得ており、和牛生産改良組合の取り組みが高評価に繋がっています。

## 4. 効率的な農地利用の推進

### (1) 農地流動化対策

高齢化、担い手不足、離農、規模縮小等により受け手のいない農地の発生が懸念されていますが、現状においては、農業委員会によるあっせん等により農地の受け手は確保されています。

一方で、貸借を中心に、営農地区を超えて農業者と地主間での自由なやり取りによる農地移動が行われており、規模拡大に伴う飛び地が多くなっているため、移動時間や作業準備に多大な労力を費やしている生産者も増えていることから、効率的な農地利用に向けた農地流動化には繋がっていない状況にあります。

また、国営事業実施地区においては、換地による農地の流動化が推進されています。

なお、農地中間管理事業についても、出し手と受け手のマッチングを図りながら活用されています。

## 5. 土地基盤整備の推進方策

### (1) 区画整理事業

国営緊急農地再編整備事業による換地により、農地の集積化が進み、水田を中心とした区画拡大が図られています。

また、農地耕作条件改善事業等により、国営緊急農地再編整備事業の実施区域外についても、水田の区画拡大が進められています。

### (2) 土地基盤整備

国営緊急農地再編整備事業により暗渠や地下かんがいシステムが整備され、水田の汎用化を進めています。

また、国営緊急農地再編整備事業の実施区域外においては、農地耕作条件改善事業の活用による暗渠の整備が進められています。

### (3) 土地改良施設の維持管理

土地改良施設は老朽化が進んでいるが、国営緊急農地再編整備事業実施地区については、用水及び排水系統の見直しも含めた改修が進められています。

また、水利施設の維持管理にあたっては、計画的に事業の活用を図ることにより、受益者の負担軽減を実施しています。

## 【 総括 】

第7次今金町農業振興計画は、「効率的かつ安定的な農業経営の実現」を目指すため、「規模拡大型」「集約型」の二つのスタイルへの転換を推進しましたが、自己完結型農業からの脱却が進まず、眞の「今金型地域複合経営」の実現までは至りませんでした。

施策については、主要振興方策に基づき今金町産業基盤整備促進支援事業、担い手対策事業、国営緊急農地再編整備事業、農地耕作条件改善事業などの施策を実施しています。

第8次今金町農業振興計画では、具体的な対策である主要振興対策の確実な実行に向け、毎年検証を実施し、生産者に対する周知の徹底と実行への理解を求めてまいります。

### 3. 今金農業の目指す姿（農業振興方策）

第8次今金町農業振興計画は、「効率的かつ安定的な農業経営の実現」を目指すため、本町農業の現状と課題を踏まえ将来農業の目指すべき姿を具体的に示すものです。

農業を取り巻く環境は、米生産の自由化、TPP11や日EU・EPA、更には日米物品貿易協定（TAG）等の外的な要因も加わり国際間・産地間の競争が一層激しくなり、これまで以上に厳しい条件の下で営農を続けなければなりません。

農業情勢の先行き不安から「現状維持」の意向が強い風潮にありますが、このままでは高齢化や顕在化した労働力不足に対応することが出来ず、経営が立ち行かなくなることが危惧されます。

将来にわたり農業経営を続けるためには、農業者自身が将来について考え、経営改善を図ることが重要となります。その実現に向けて営農地区内や農業者間での話し合いを強化するとともに、スマート農業を普及し、農業者、関係団体、行政が一体となり、課題への対策を推進するため、下記の3項目の農業振興方策を定めます。

#### 1. 今金型地域複合経営の推進

##### （1）今金型地域複合経営の推進

農業を取り巻く環境は一層の厳しさを増している中、当町農業を維持・発展のためには、農業情勢の変化に対応できる農業者の意識改革が日々必要となっています。将来にわたり農業経営を続けるためには、経営の効率化と安定化を図ることが重要課題であり、その具体策として「今金型地域複合経営」を提案します。

##### ※今金型地域複合経営とは

今金型地域複合経営とは、「規模拡大型」と「集約型」二つのスタイルを示します。この二つのスタイルを推進し、実践することにより、「効率的かつ安定的な農業経営の実現」を目指します。

##### ◎「規模拡大型」

- ・土地利用型作物の経営を主体として規模拡大を行い、国の政策支援を有効活用して、所得確保を目指します。
- ・農地の受け手となるとともに、栽培品目を縮減し機械コストの削減を図ります。
- ・耕畜連携、交換作、ブロックローテーションにより、地域内で適正な輪作体系を組み、生産力を確保します。
- ・酪農畜産は、粗飼料生産部門、育成部門、搾乳部門の分業化を検討します。

##### ◎「集約型」

- ・農地の出し手となり、施設野菜経営に特化することで機械コストの削減を目指します。
- ・ミニトマト、アスパラガス、軟白長ネギを推進し、付加価値を高め自由化等の農業情勢に左右されない作付体系を目指します。

## (2) 営農地区内や農業者間での合意形成

「効率的かつ安定的な農業経営の実現」を目指し、「今金型地域複合経営」を実践するためには、農業者自身が考え方判断するとともに、営農地区内や農業者間での話し合いによる、効率的な機械・農地の利用における合意形成が必要となります。

「人・農地プラン」の見直しにより、営農地区の現状把握、担い手の明確化、農地の利用、作業体系等について、営農地区内での合意形成を図り、互いに支え合う農業経営を推進します。

## 2. 基盤整備農地の効果的な活用

### (1) 大区画ほ場による効率的な作業の実施

国営緊急農地再編整備事業や農地耕作条件改善事業の施工が進んでおり、農地の大区画化から、作業の効率化が図られていますが、更に効率的な作業が実施できるようスマート農業を推進することにより、基盤整備農地のポテンシャルを十分に発揮できる環境を目指します。

具体的な対策として、RTK アンテナ設置に伴う GPS ガイダンスや自動操舵システム導入の検討などを進め、国・道費補助の活用による負担軽減を図り、導入を推進します。

### (2) 輪作体系の再検討

国営緊急農地再編整備事業や農地耕作条件改善事業の施工により、田畠輪換など今までの輪作体系とは異なる作付けの実施が可能となることから、水稻も含めた輪作体系の構築を再検討します。

また、新規作物（技術）の導入についてもあわせて検討を行います。

### (3) 基盤整備の計画的な実施

本町の農地は泥炭地及び粘性土が大半を占め、透水性の悪いほ場が多くあり、課題解決のためには基盤整備を計画的に実施していくことが必要不可欠です。

そのため、第7次農業振興計画から継続し、国営緊急農地再編整備事業や農地耕作条件改善事業を推進します。

### (4) 酪農畜産の推進

基盤整備農地を中心として、肉用牛向けにWCS用稻（ホールクロップサイレージ）や飼料用米を始めとした飼料作物の作付けを推進し、耕畜連携や特色のある飼料給餌による今金和牛ブランドの更なる向上を図ります。

また、乳用牛については、高品質な生乳生産のため、良質な自給飼料の生産が必要不可欠であることから、国・道費補助を活用した草地整備の推進を図るとともに、疾病や事故率を減少させるため、牛舎環境の改善・向上を図る対策もあわせて推進します。

酪農畜産戸数及び飼養頭数は減少の一途をたどっており、これから酪農畜産をどうしていくべきか検討するため、生産者を中心とした組織を立ち上げ、方向性を構築していきます。

### 3. 営農の継続・生産性向上の対策

#### (1) 作業省力化・分業化による経営の維持・拡大

高齢農家は営農の継続、担い手は経営の維持・拡大を図れるよう、スマート農業による作業の省力化を推進します。

農畜産物の生産・出荷における分業化の検討をするとともに、5地区機械施設利用組合を中心とした作業受託組織の在り方、共同作業、非農業者や高齢者の雇用等、営農が安定的に継続できる体制について、今後の方向性も含めて協議を進めます。

#### (2) 労働力不足に対応する新技術の導入・検討

スマート農業の取組を新たに地域で普及させるとともに、栽培技術を中心とした新技術を導入することにより、労働力不足に対応します。

具体的には、施設園芸作物を中心とした農業用ハウスにおけるモニタリング・環境制御装置や現在開発中の自動収穫機、酪農における自動給餌機などの導入検討を進めます。

また、省力化に関連する新技術について、導入検討を進めます。

#### (3) 新規就農者も含めた農業従事者の確保

新規就農希望者に対しては、今金町地域担い手育成総合支援協議会が相談窓口となり、対応します。

また、無料職業紹介所（グリーンサポートセンター）の運営を引き続き行い、町内での農業者と就業希望者とのマッチングを支援します。

### 4. 継続する必要がある取組

#### (1) 生産履歴記帳・G A P等の推進

安心・安全への取組として生産履歴記帳やG A Pの継続、更に付加価値を高めるため、第三者認証G A P等の取得を目指した講習会や学習会への参加を推進します。

## (2) 土づくり対策

転作田による湿害、連作障害、有機質不足等が見られることから、透排水性の不良箇所の改善を目的に基盤整備及び心土破碎を推進します。

また、土壤改良による安定収量の確保や連作障害を回避するための輪作体系の遵守を徹底します。

## (3) シストセンチュウ対策

シストセンチュウ対策については、特に「今金男しやく」を守るため重要な対策として位置づけ、輪作体系の構築や被害・拡大防止の取組を徹底します。

## (4) 環境に配慮した農業の取組

第7次農業振興計画から継続し、Y e s ! C l e a n 等の環境に配慮した農業の取組を推進します。

## (5) 農畜産物の販路拡大

「今金男しやく」の地域団体商標認定や地理的表示（GI）保護制度を取得し、実需者の信頼を得る取組を実施しており、「今金男しやく」取引先へ今金産農産物の供給を行うことで、従来の販路を拡大し有利販売に努めます。

酪農については、良質乳生産を行い、畜産については、市場性の高い牛づくりを推進し、また、「今金和牛」についても生産力の向上を図り、有利販売に努めます。

## (6) 農業後継者・法人化への支援

農家戸数の減少や経営主の高齢化、後継者不足の中で担い手の確保は重要な課題となっています。

後継者である農家子弟等を中心に支援を継続するとともに、農業経営や制度、生産技術等の学習会や各種講習会等への参加を推進し、人材の育成を図るとともに、法人化への支援も実施します。

## (7) 地域住民と農業との関わりの強化

農業への理解や関心を深め、農業が将来の就業先（パートやオペレーターも含む）として選択肢に入るよう、スマート農業を推進することにより、地域住民と農業を繋げる取組を行います。

#### (8) 土地改良施設の維持管理

土地改良施設について、近年は老朽化により修理、補修、布設替えが計画的に必要となっています。

支線用水路・排水路については、国営緊急農地再編整備事業等の施工により用水・排水系統の見直しも含めて改修を行います。

頭首工・揚水機場等の点的施設及び用排水路改修等については、必要に応じて地元水路愛護組合と協議していきます。

## 4. 主要振興対策

今金農業の目指す姿（農業振興方策）の3つの方策を実現するため、具体的な取り組みとして次のとおり主要振興対策を定めます。農業関連事業はこの振興対策に基づき実施されます。また、毎年検証を行い3年後の後期計画作成時に必要な見直しを行います。

整理番号	関連する農業振興方策	主要振興対策	取り組み内容
1	今金型地域複合経営の推進	スマート農業の推進	R T Kアンテナの有効活用 多様な経営（規模拡大型・集約型・酪農畜産）での省力化対策の検討・実践
	基盤整備農地の効果的な活用		
	営農の継続・生産性向上の対策		
2	基盤整備農地の効果的な活用	基盤整備の推進	国営緊急農地再編整備事業・農地耕作条件改善事業の実施
	営農の継続・生産性向上の対策		
3	基盤整備農地の効果的な活用	酪農畜産の推進	酪農畜産の課題への対応 草地整備を中心とした自給飼料生産の強化
	営農の継続・生産性向上の対策		
4	今金型地域複合経営の推進	農畜産物の生産・出荷における分業化の検討	作業受委託組織の方向性及び分業化の検討
	営農の継続・生産性向上の対策		
5		継続する必要がある取組	生産履歴記帳・G A P等の推進
			土づくり対策
			シストセンチュウ対策
			環境に配慮した農業の取組
			農畜産物の販路拡大
			農業後継者・法人化への支援
			地域住民と農業との関わりの強化
			土地改良施設の維持管理

第8次今金町農業振興計画 主要振興対策 整理番号1

関連する農業振興方策	主要振興対策
今金型地域複合経営の推進	スマート農業の推進
基盤整備農地の効果的な活用	
営農の継続・生産性向上の対策	

項目	取組主体	令和2年度
RTK アンテナ の有効活用	生産者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入するスマート農業関連機械の検討</li> <li>・需要調査への回答・要望に応じた聞き取りへの対応</li> </ul> <p>※関連機械導入済の場合:GPS ガイダンス・自動操舵システムの設定等、効果検証アンケートの回答</p>
	関係機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関連機械導入済者への効果検証アンケートの実施</li> <li>・需要調査の実施</li> <li>・聞き取りの実施(要望に応じて)</li> </ul>
規模拡大型の取組 集約型の取組 酪農畜産の取組	生産者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入するスマート農業関連機械の導入検討</li> <li>・需要調査への回答・要望に応じた聞き取りへの対応</li> <li>・学習会への出席</li> </ul>
	関係機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・需要調査の実施</li> <li>・聞き取りの実施(要望に応じて)</li> <li>・学習会等の開催・周知</li> </ul>

項目	導入を検討していくスマート農業関連機械(参考)
規模拡大型	自動運転トラクタ・自動操舵トラクタ・ラジコン草刈機・
集約型	ハウス内複合環境計測・ハウス内複合制御システム・
酪農畜産	GPS ガイダンス・自動操舵・自動哺乳機・自動給餌機・

取組内容

RTKアンテナの有効活用

多様な経営(規模拡大型・集約型・酪農畜産)での省力化対策の検討・実践

令和3年度	令和4年度	効 果
<ul style="list-style-type: none"><li>・効果検証分析の確認</li><li>・最終的な導入意向判断</li><li>・事業計画作成への協力</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li><u>・関連機械の導入・実践</u></li><li>・効果検証アンケートの回答 (当該年度導入者のみ)</li></ul>	RTK アンテナを最大限生かすため、GPS ガイダンス・自動操舵システムの導入を図り、各種作業(耕起・播種・施肥・防除など)の労力軽減及びコストの減少(肥料代・燃料代・労賃)を目指す。
<ul style="list-style-type: none"><li>・効果検証の分析・公表</li><li>・需要調査の結果集約</li><li>・事業計画の作成</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li><u>・国・道費補助の申請</u></li><li>・効果検証アンケートの実施</li><li>・後期計画に向けた検討</li></ul>	
<ul style="list-style-type: none"><li>・最終的な導入意向判断</li><li>・事業計画作成への協力</li><li>・学習会への出席</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li><u>・関連機械の導入・実践</u></li><li>・効果検証アンケートの回答 (当該年度導入者のみ)</li></ul>	自分の経営(施設)にあったスマート農業関連機械の導入を図り、経営規模の維持や拡大、作業時間の短縮や高度管理による高品質化により所得向上を目指す。
<ul style="list-style-type: none"><li>・需要調査の結果集約</li><li>・事業計画の作成</li><li>・学習会等の開催・周知</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li><u>・国・道費補助の申請</u></li><li>・効果検証アンケートの実施</li><li>・後期計画に向けた検討</li></ul>	

導入を検討していくスマート農業関連機械(参考)

ドローン・遠隔操作型自動給水栓・直進キープ機能付き田植機・収量コンバイン

収穫ロボット・かご交換ロボット・自動換気装置・自動かん水装置・比重選別機

自動搾乳機・自動敷料散布機・発情発見システム・分娩監視装置・牛舎監視カメラ

第8次今金町農業振興計画 主要振興対策 整理番号2

関連する農業振興方策	主要振興対策	取組内容
基盤整備農地の効果的な活用		
営農の継続・生産性向上の対策	基盤整備の推進	国営緊急農地再編整備事業・農地耕作条件改善事業の実施

取組主体	令和2年度	令和3年度	令和4年度
生産者	・事業参加の申込(国営受益地外) ・国営事業の話し合いへの参加	同左	同左
関係機関	・事業申込の受付(国営受益地外) ・調査設計の実施 ・工事の施工	同左	同左

効 果
ほ場の大区画化及び透排水性の改善を図り、作業の効率性を高める。
また、相乗効果として、スマート農業の導入に適した農地環境となることや輪作体系の再構築を検討することにより、作業体系の見直し等から、更なる作業の効率化・所得向上が見込まれる。
①大区画化による作業の効率性の向上(耕耘・播種・施肥・防除など)
②新規作物(既存作物より高収益となる作物)の導入による所得向上
③スマート農業の導入によるコストの減少及び労働軽減

第8次今金町農業振興計画 主要振興対策 整理番号3

関連する農業振興方策	主要振興対策	取組内容
基盤整備農地の効果的な活用		酪農畜産の課題への対応
営農の継続・生産性向上の対策	酪農畜産の推進	草地整備を中心とした自給飼料生産の強化

酪農畜産の課題への対応	
酪農畜産戸数及び飼養頭数の減少や高齢化・労働力不足など課題の対応に向けた取組を協議・検討するための場を作り、その中で補助事業の活用も図りながら、今後の方向性を定めていく。	①自給飼料生産の対策 ②省力化・労働力不足の対策

取組主体	令和2年度	令和3年度	令和4年度
生産者	・協議への参加 ・事業参加の申込 ・牛舎環境の改善	・協議での議論 ・課題対策の実践 ・牛舎環境の改善	・協議での議論 ・課題対策の実践 ・牛舎環境の改善
関係機関	・協議の場の提供 ・事業参加の受付	・協議の場の提供 ・草地整備設計等	・協議の場の提供 ・課題対策の支援

効 果
①草地整備事業を活用し、良質な自給飼料生産による所得向上。
②今後の方向性の検討・対策の実施により、分業化・省力化など。
③牛舎環境の改善・向上による乳質改善や疾病の減少・事故の防止。

第8次今金町農業振興計画 主要振興対策 整理番号4

関連する農業振興方策	主要振興対策	取組内容
今金型地域複合経営の推進	農畜産物の生産・出荷における分業化の検討	作業受託組織の方向性及び分業化の検討
営農の継続・生産性向上の対策		

取組主体	令和2年度	令和3年度	令和4年度
生産者、受託組織	・検討への参加 ・機械導入等の要望とりまとめ等		
関係機関	・話し合いの声掛け ・機械導入等への事業活用支援		

### 効 果

営農が安定的に継続できる体制について、今後の方向性を作業受託組織も含めて検討していくことにより、必要とされる作業や農業機械の見直しなどから、地域全体での作業省力化・分業化における体制の構築を図る。

- ①省力化・労働軽減による経営規模の維持・拡大及び営農の継続。
- ②機械導入等により、作業受託組織の基盤強化・受託面積の増加。

第8次今金町農業振興計画 主要振興対策 整理番号5

関連する農業振興方策	主要振興対策	取組内容
	継続する必要がある取組	下記の8項目

取組内容	生産者	関係機関
生産履歴記帳・GAP等の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産履歴記帳及びGAPの継続実施</li> <li>・第三者認証GAPの取組検討・実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産履歴記帳・GAP の配布・回収</li> <li>・第三者認証 GAP の周知・支援</li> </ul>
土づくり対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年輪作の実施</li> <li>・輪作体系の再検討</li> <li>・心土破碎等の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作付作物の把握</li> <li>・データ管理等</li> <li>・情報提供等</li> </ul>
シストセンチュウ対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土壤診断の実施</li> <li>・発生ほ場の管理</li> <li>・農業機械等の洗浄</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発生ほ場の把握</li> <li>・町民への対策の周知</li> </ul>
環境に配慮した農業の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Yes!Clean 等の取組の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Yes!Clean 等の取組の普及・支援</li> </ul>
農畜産物の販路拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニーズに対応した農畜産物の生産</li> <li>・市場関係者との意見交換等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今金男しゃくを中心とした販売戦略の検討・実施</li> <li>・倉庫の有効活用</li> </ul>
農業後継者・法人化への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種制度の利用</li> <li>・法人化への検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者への支援</li> <li>・学習会等の開催</li> </ul>
地域住民と農業との関わりの強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町民との関わる取組の実施・検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各団体との情報共有・連携の検討</li> </ul>
土地改良施設の維持管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的な修理・補修の検討・協議</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて地元団体との協議</li> <li>・補修・改修の実施</li> </ul>

#### 4. 年次別農業生産計画

##### 農業粗生産計画

項目		平成30年度(実績)					
		作付面積 (ha)	単位	生産量		生産額	
				10a反収	生産量	単価(円)	生産額(千円)
米	1,366.3	俵		7.7	105,307	13,619	1,434,170
小麦	355.5	俵		4.2	15,080	2,154	32,489
豆類	大豆	430.0	俵	3.0	12,687	12,843	162,937
	小豆	105.0	俵	2.5	2,604	33,328	86,787
	小計	535.0			15,291		249,724
馬鈴薯	種子	78.8	t	2.4	1,863	101,791	189,636
	食用	283.6	t	2.2	6,145	79,136	486,292
	早出	40.8	t	2.4	960	129,367	124,192
	小計	403.2			8,968		800,120
甜菜	144.8	t		5.0	7,241	14,705	106,476
野菜類	生食大根	25.7	t	4.1	1,055	103,000	107,773
	人參	35.0	t	1.8	621	194,686	120,900
	小カブ	1.5	t	7.2	108	171,917	18,567
	軟白長ネギ	5.0	t	4.9	244	524,816	128,055
	生しいたけ	35,000.0	本		27	965,185	26,060
	ミニトマト	10.4	t	5.5	575	823,125	473,297
	ブロッコリー	26.0	t	0.9	224	428,710	96,031
	Gアスパラ	1.6		1.0	16	1,619,000	25,904
	その他				—		30,349
	小計						1,026,936
農産物計							3,649,915
項目		頭数	生産量		生産高		
			単位	1頭当たり	生産量	単価	生産額(千円)
生乳	1,000	頭		7,163.5	7,163,500	90.5	648,923
				(kg)	(kg)	(kg当り)	
ボトク牛	195	頭				131,785	25,698
F1牛	197	頭				209,670	41,305
乳用牛	育成牛	71	頭			342,662	24,329
	導入育成牛	0	頭			0	0
	初妊牛	31	頭			808,129	25,052
	導入初妊牛	0	頭			0	0
	経産牛	39	頭			287,641	11,218
	導入経産牛	17	頭			351,647	5,978
	廃用肉牛	37	頭			154,027	5,699
黒毛和種	素牛黒毛和種	678	頭			789,900	535,552
	繁殖牛	19	頭			964,842	18,332
	廃用牛	76	頭			259,487	19,721
	導入黒毛和種	10	頭			735,400	7,354
	肥育牛	17	頭			1,194,235	20,302
F1牛 素牛	12	頭				271,750	3,261
酪農畜産計	1,399	頭					1,392,724
農畜産物計							5,042,639

農業粗生産計画

項目		令和元年度（見込み）					
		作付面積 (ha)	単位	生産量		生産額	
				10a反収	生産量	単価(円)	生産額(千円)
米	1,380.0	俵		8.5	117,300	13,200	1,548,360
小麦	320.0	俵		7.0	22,400	2,200	49,280
豆類	大豆	420.0	俵	3.4	14,280	12,000	171,360
	小豆	105.0	俵	3.6	3,780	18,000	68,040
	小計	525.0			18,060		239,400
馬鈴薯	種子	67.0	t	3.2	2,144	75,000	160,800
	食用	320.0	t	2.4	7,680	65,000	499,200
	早出	40.0	t	2.8	1,120	126,000	141,120
	小計	427.0			10,944		801,120
甜菜	150.0	t		5.8	8,700	10,000	87,000
野菜類	生食大根	29.0	t	3.2	928	103,000	95,584
	人參	35.0	t	2.7	948	110,000	104,280
	小カブ	1.5	t	5.4	81	125,000	10,125
	軟白長ネギ	5.0	t	6.0	300	400,000	120,000
	生しいたけ	35,000.0	本		27	800,000	21,600
	ミニトマト	11.0	t	5.0	550	650,000	357,500
	プロッコリー	26.0	t	1.0	260	400,000	104,000
	Gアスパラ	1.6		2.0	32	1,000,000	32,000
	その他				—		38,128
	小計						883,217
農産物計							3,608,377
項目		頭数	生産量			生産高	
			単位	1頭当たり	生産量	単価	生産額(千円)
生乳	1,000	頭		7,000.0	7,000,000	90.5	633,500
				(kg)	(kg)	(kg当り)	
ボトク牛	200	頭				80,000	16,000
F1牛	200	頭				180,000	36,000
乳用牛	育成牛	35	頭			350,000	12,250
	導入育成牛	20	頭			300,000	6,000
	初妊牛	20	頭			650,000	13,000
	導入初妊牛	0	頭			0	0
	経産牛	10	頭			200,000	2,000
	導入経産牛	0	頭			0	0
黒毛和種	廃用肉牛	30	頭			150,000	4,500
	素牛黒毛和種	700	頭			699,600	489,720
	繁殖牛	30	頭			700,000	21,000
	廃用牛	50	頭			200,000	10,000
	導入黒毛和種	15	頭			800,000	12,000
	肥育牛	20	頭			1,100,000	22,000
F1牛 素牛	5	頭				250,000	1,250
酪農畜産計	1,335	頭					1,279,220
農畜産物計							4,887,597

農業粗生産計画

項目		令和2年度(計画)					
		作付面積 (ha)	単位	生産量		生産額	
				10a反収	生産量	単価(円)	生産額(千円)
米	1,400.0	俵		8.1	113,050	13,200	1,492,260
小麦	350.0	俵		6.7	23,275	2,000	46,550
豆類	大豆	440.0	俵	3.2	14,212	10,000	142,120
	小豆	100.0	俵	3.4	3,420	14,000	47,880
	小計	540.0			17,632		190,000
馬鈴薯	種子	67.0	t	3.0	2,037	95,000	193,496
	食用	313.0	t	2.4	7,434	80,000	594,700
	早出	40.0	t	2.8	1,120	120,000	134,400
	小計	420.0			10,591		922,596
甜菜		150.0	t	5.8	8,700	10,000	87,000
野菜類	生食大根	30.0	t	3.5	1,050	103,000	108,150
	人參	40.0	t	2.7	1,080	100,000	108,000
	小カブ	1.5	t	5.4	81	125,000	10,125
	軟白長ネギ	4.0	t	5.7	228	400,000	91,200
	生しいたけ	22,000.0	本		25	800,000	20,064
	ミニトマト	11.5	t	5.0	575	650,000	373,750
	プロッコリー	28.0	t	1.0	280	400,000	112,000
	Gアスパラ	1.8		1.3	23	1,000,000	23,400
	その他				—		21,448
小計							868,137
農産物計							3,606,543
項目		頭数	生産量		生産高		
			単位	1頭当たり	生産量	単価	生産額(千円)
生乳		1,000	頭	7,020.0	7,020,000	90.5	635,310
				(kg)	(kg)	(kg当り)	
ボトク牛		200	頭			80,000	16,000
F1牛		200	頭			180,000	36,000
乳用牛	育成牛	35	頭			350,000	12,250
	導入育成牛	20	頭			300,000	6,000
	初妊牛	20	頭			650,000	13,000
	導入初妊牛	0	頭			0	0
	経産牛	10	頭			200,000	2,000
	導入経産牛	0	頭			0	0
黒毛和種	廃用肉牛	30	頭			150,000	4,500
	素牛黒毛和種	700	頭			720,000	504,000
	繁殖牛	30	頭			720,000	21,600
	廃用牛	50	頭			200,000	10,000
	導入黒毛和種	15	頭			800,000	12,000
	肥育牛	20	頭			1,100,000	22,000
F1牛 素牛		5	頭			250,000	1,250
酪農畜産計		1,335	頭				1,295,910
農畜産物計							4,902,453

## 農業粗生産計画

項目		令和3年度(計画)					
		作付面積 (ha)	単位	生産量		生産額	
				10a反収	生産量	単価(円)	生産額(千円)
米	1,420.0	俵		8.1	114,665	13,200	1,513,578
小麦	350.0	俵		6.7	23,275	2,000	46,550
豆類	大豆	440.0	俵	3.2	14,212	10,000	142,120
	小豆	100.0	俵	3.4	3,420	14,000	47,880
	小計	540.0			17,632		190,000
馬鈴薯	種子	67.0	t	3.0	2,037	95,000	193,496
	食用	313.0	t	2.4	7,434	80,000	594,700
	早出	40.0	t	2.8	1,120	120,000	134,400
	小計	420.0			10,591		922,596
甜菜	160.0	t		5.8	9,280	10,000	92,800
野菜類	生食大根	30.0	t	3.5	1,050	103,000	108,150
	人參	40.0	t	2.7	1,080	100,000	108,000
	小カブ	1.5	t	5.4	81	125,000	10,125
	軟白長ネギ	4.0	t	5.7	228	400,000	91,200
	生しいたけ	22,000.0	本		25	800,000	20,064
	ミニトマト	11.5	t	5.0	575	650,000	373,750
	プロッコリー	28.0	t	1.0	280	400,000	112,000
	Gアスパラ	1.8		1.4	26	1,000,000	26,000
	その他				—		21,448
	小計						870,737
農産物計							3,636,261
項目		頭数	生産量		生産高		
			単位	1頭当たり	生産量	単価	生産額(千円)
生乳	1,000	頭		7,110.0	7,110,000	90.5	643,455
				(kg)	(kg)	(kg当り)	
ボトク牛	200	頭				80,000	16,000
F1牛	200	頭				180,000	36,000
乳用牛	育成牛	35	頭			350,000	12,250
	導入育成牛	20	頭			300,000	6,000
	初妊牛	20	頭			650,000	13,000
	導入初妊牛	0	頭			0	0
	経産牛	10	頭			200,000	2,000
	導入経産牛	0	頭			0	0
	廃用肉牛	30	頭			150,000	4,500
黒毛和種	素牛黒毛和種	700	頭			740,000	518,000
	繁殖牛	30	頭			740,000	22,200
	廃用牛	50	頭			200,000	10,000
	導入黒毛和種	15	頭			800,000	12,000
	肥育牛	20	頭			1,100,000	22,000
	F1牛 素牛	5	頭			250,000	1,250
酪農畜産計		1,335	頭				1,318,655
農畜産物計							4,954,916

## 農業粗生産計画

項目		令和4年度(計画)					
		作付面積 (ha)	単位	生産量		生産額	
				10a反収	生産量	単価(円)	生産額(千円)
米	1,450.0	俵		8.1	117,088	13,200	1,545,555
小麦	350.0	俵		6.7	23,275	2,000	46,550
豆類	大豆	440.0	俵	3.2	14,212	10,000	142,120
	小豆	100.0	俵	3.4	3,420	14,000	47,880
	小計	540.0			17,632		190,000
馬鈴薯	種子	67.0	t	3.0	2,037	95,000	193,496
	食用	313.0	t	2.4	7,434	80,000	594,700
	早出	40.0	t	2.8	1,120	120,000	134,400
	小計	420.0			10,591		922,596
甜菜	160.0	t		5.8	9,280	10,000	92,800
野菜類	生食大根	30.0	t	3.5	1,050	103,000	108,150
	人參	40.0	t	2.7	1,080	100,000	108,000
	小カブ	1.5	t	5.4	81	125,000	10,125
	軟白長ネギ	4.0	t	5.7	228	400,000	91,200
	生しいたけ	22,000.0	本		25	800,000	20,064
	ミニトマト	11.5	t	5.0	575	650,000	373,750
	ブロッコリー	28.0	t	1.0	280	400,000	112,000
	Gアスパラ	1.8		1.6	29	1,000,000	28,600
	その他				—		21,448
	小計						873,337
農産物計							3,670,838
項目		頭数	生産量			生産高	
			単位	1頭当たり	生産量	単価	生産額(千円)
乳用牛	生乳	1,000	頭	7,200.0	7,200,000	90.5	651,600
				(kg)	(kg)	(kg当り)	
	ボトク牛	200	頭			80,000	16,000
	F1牛	200	頭			180,000	36,000
	育成牛	35	頭			350,000	12,250
黒毛和種	導入育成牛	20	頭			300,000	6,000
	初妊牛	20	頭			650,000	13,000
	導入初妊牛	0	頭			0	0
	経産牛	10	頭			200,000	2,000
	導入経産牛	0	頭			0	0
	廃用肉牛	30	頭			150,000	4,500
	素牛黒毛和種	700	頭			750,000	525,000
F1牛 素牛	繁殖牛	30	頭			750,000	22,500
	廃用牛	50	頭			200,000	10,000
	導入黒毛和種	15	頭			800,000	12,000
	肥育牛	20	頭			1,100,000	22,000
	F1牛 素牛	5	頭			250,000	1,250
酪農畜産計		1,335	頭				1,334,100
農畜産物計							5,004,938

## 5. 今金町農林業振興会議

農林業振興会議は、町内の関係機関の代表者が集まり、本町農業の活性化及び振興に関して、必要な事項の調査及び審査を行い、その推進を図ることを目的として組織されています。事務局は、今金町農林振興課に置いています。

第8次農業振興計画に関しては、農業政策から基盤整備まで幅広い内容で協議を行い作成しています。

今金町農林業振興会議委員名簿

職名	氏名	所属
会長	村上仁司	今金町農業委員会 会長
副会長	小田島親守	今金町農業協同組合 代表理事組合長
〃	伊藤修史郎	今金町森林組合 代表理事組合長
委員	矢内義則	今金町農業委員会 会長代理
〃	酒井誠一	狩場利別土地改良区 理事長
〃	中野公郎	狩場利別土地改良区 副理事長
〃	仁木明	今金町農業協同組合 専務理事
〃	大場倫夫	今金町農業協同組合 常務理事
〃	和田忍	有限会社姥名商店 代表取締役
〃	高橋正志	みなみ北海道農業共済組合道南支所道南北部事業所 所長
〃	天沼寧	今金町農民連盟 執行委員長
〃	外崎秀人	今金町 町長
〃	中島光弘	今金町 副町長

(オブザーバー)

	菊池義彦	檜山農業改良普及センター檜山北部支所 支所長
	根田竜児	北海道開発局函館開発建設部函館農業事務所 所長
	内ヶ島道良	今金町国営農地再編整備事業促進期成会 会長

(令和元年11月1日現在)